

艦これ 「提督と漣達が
ひたすら喋ってるだ
け？のお話」

ゆっくりシップ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この短編はT w i t t e rの「好きなものに忠実に書く祭」に参加させて頂いたやつです。

目次

漣「ご主人様、夢って見ますか？」

1

漣「ご主人様、夢って見ますか？」

「ここはある所にある鎮守府。

ホントは少し説明とかしたいけど読者の皆さん、正直導入とか要らないでしょ？んな訳でいきなり本編どぞ。キャラ説明はオマケとしてついてくるので。

「…………… そう言えば昨日ぼのたんがですねーって聞いてますかご主人様？」

「…………… ムニャ」

「むっかー！漣が折角今からぼのたんの恥ずかし面白い黒歴史を話してあげようとしたのにご主人様ったらー！これには仏のような優しさを持った漣ですらム力着火 f i r e ですよ!！」

「いや仏は嘘だろ絶対」

「起きてんじやないですかご主人様のバカ！アホ！ドジマヌケ！お前のかーちゃん美人さんー！」

「酷い言い様だしなんで母さんだけ誉めてんの!?!会ったこと無いよねお前!?!」

「そう思っていたご主人様の姿はお笑いでしたよ……………」

「なん…………… だと!?!」

「前にご主人様が会議で本部に行つてた時にご主人様のお義母様が鎮守府に来たんですよーあれはこの漣の目を持つてしても読めなかった……」

「そんな…… 嘘だと言つてよバーニー！」

「バーニーが例え嘘だと言つても事實は事實、漣が美人でチョーイカす艦娘なのと同じくらい純度100%の事實なのですよ！」

「だからそれは無いって」

「キー！事實でしょ！ねえ執務室の扉の裏でこっそり盗み聞きしてるぼのたん達？」

「!?ダツダレモイナイワヨ？」

「曙の奴嘘下手くそ過ぎだろ……」

「はあ!?あなたにだけは言われたく無いんですけどクソ提督！前の作戦の時だつて私のミスなのにあなたが庇つたせいで危うく軍法会議にかけられる所だつたのよ!！」

「おやおやー?あのあと泣きながら寝てるご主人様の布団に潜り込んで抱きついてた小娘がなに言つてるのかなー?」「なにそれ俺知らないんだけど」

「…… 漣。ちよつと表出なさいあなたとは1度白黒はつきり決着つけてやるわ!」

「ふっふっふ…… これに勝つた方が食後のアイスも間宮券もご主人様も総取

り…… それでいいね?」

「!…… いいじゃない、まああたしはクソ提督は全く興味無いけど?勝つたらしよう

がなく？貰ってあげてもいいと言うか？」

「おうおうツンデレやめーやぼのたん」

「あーもう頭に来た。覚悟しなさい漣！」

「デュエル!!」

サザナミノターン！リンクリボーヲリンクシヨウカン！

「俺…… 景品なのか……」

「すいません提督…… あたしが曙ちゃんに「漣ちゃんが最近凄く提督と仲がいい」つて言っちゃったせいで……」

「別に構わないさ。こんくらい賑やかな方が楽しいし」

「そう…… ですか？」

「ああ。それになんか懐かしい気がするんだ…… いつもこんな感じなのにさ。なんでかな？」

「…… あっそう言えば潮ちゃんがさつき提督を探してましたよ」

「？なんだろうな。と言うかどうして探してたのに一緒にここになかったんだ？」

「!?そつそれは……」

「ははっ臍でもうっかりミスする時あるんだな」

ホッ「はい…… うっかりしてました」

「次気を付けなければいいさ。んじやあいつらが決闘してる間に行つてくるかな。執務も終わってるし。臙、留守番頼めるか？」

「了解。それじゃ行つてらっしゃい提督」

「行つてきます、臙。なんか夫婦みたいだなこのやり取り」

「…… そつち行つたよ、潮ちゃん。やっぱ戻りかけてるみたい」

提督移動中……

「私のー全てが海色に消えてもー♪」

「…… 珍しいな。昼間なのに廊下に誰もいないなんて。まあ皆部屋で休んでるんだろ、早く潮の所に行かないと……」

提督更に移動中……

「…… だな。潮ー？入るぞ？」

「！ 提督ですか？どうぞ……」

「で、なんのよ…… う」

バタッ

「…… すいません提督…… はあまだ消えきつてなかったよ……」

「…… つーご主人様！」

「スラムツパギ!!」「なんですかその起きかた」ああ漣か」

「皆もいますよ。で? 2人の美少女がご主人様の寝顔を見てた訳ですが、夢でも見てたんですか?ご主人様、凄い顔してましたよ?」

「うーんなんか夢を見てた気はするんだけどな…… 思い出せないや」

「…… どうせクソ提督が覚えてないくらいなんだからどうでもいい夢なんでしょ」

「そう…… だな。うん、きつとそうだ。面白いや潮と臍は?」

「あの二人ならご主人様が起きる少し前に外に出たんでそろそろ帰ってくるはずですよ」

「ねえクソ提督」

「?」

「あんたはもう何処にも行かないわよね?」

「当たり前だろ?ここで5人だけで過ごす、素敵じゃないか」

「…… そうよね」

「ご主人様もぼのたんも漣の事忘れてません?」

「忘れてないって…… そいやさ、漣」

「どうしました?ご主人様、さてはおトイレですか?」

「違う違う。漣達は夢とか見るのかなって」

「そうですね……漣達にとっては、今この瞬間が夢のようですよ。だってようやくご主人様を独占できるんですもの」